

**学校法人嘉悦学園
嘉悦大学短期大学部
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

嘉悦大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 嘉悦学園
理事長名	嘉悦 克
学長名	古賀 義弘
A L O	森 康夫
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都小平市花小金井南町2丁目8番地4号

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
ビジネスコミュニケーション学科		150
	合計	150

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

嘉悦大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 31 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念は確立し、ウェブサイトなど各種媒体により丁寧に説明され、各種学校行事を通して全学的な共通理解が図られている。

今日の ICT（情報通信技術）を基盤とする環境に必要なコミュニケーション能力育成を目標とする教育目的達成のツールとして学生個人にパソコン保有を義務づけ、ウェブサイト上での履修登録やシラバスを公開するなど学内情報教育システム環境が整備されている。

短期大学設置基準に規定される教員組織は整備されており、かつ活発な教育活動の展開が図られている。

専門分野への高い就職率から教育目標達成への努力がうかがえる。

入学期、秋学期ごとに学生を個別に指導し、その学習や生活を支援している。「嘉悦ミニ GP」という学園独自の教育研究支援制度を定め教育研究を奨励しており、研究活動のための条件整備は整っている。

公開講座は、学部と合同であるが、年間約 100 講座前後の開設、800 人前後の参加で地域に定着し、学生も参加している。講座開設は資格取得や地域の生涯学習に大きく貢献し、支持を得ている。

理事会、監事および評議員会は寄附行為に基づき機能し、教授会は学則の定め通り学校運営上の議題を適切に審議している。また、事務組織も整備されている。

過去 5 ヶ年計画で行われた学園改革実行計画の成果を検討し、中・長期資金繰り表を作成し、年度予算などに反映させ、経営の改善と安定につとめ、安定した財務内容となっている。

自己点検・評価は平成 5 年度に始まり、授業評価は平成 9 年度から、全学教職員参加による活動は平成 13 年度から、実施され、相互評価結果をいかすなど改革・改善への努力がされている。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 具体的なキャリアデザインを描けるように育成モデルを提示し、目的達成のキャリアラムが用意され実践している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生による授業評価のみならず、教員間の授業相互参観を行い、授業改善にいかしている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学内 LAN 環境が全学的に構築され、学内情報システムを活用した学習支援システムが確立している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 企業の経営者・従事者、卒業生代表による「寺子屋かいぎ」は、学生のキャリア・ビジョンを形成する独自の取組みである。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 「嘉悦杯家庭婦人バレーボール大会」を 20 年間にわたり開催している。本事業は地域の生涯スポーツ振興のみならず、女性の向上心を高め、建学の精神にも沿ったものである。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 成績評価方法についてはシラバスに具体的な評価基準の記載が望まれる。
- 学則と学生便覧の授業時数が異なっており、その整備を行い、適切な授業時間の確保に留意されたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 短期大学の教授会と併設大学の教授会が同時に協働で開催されているが、短期大学部教授会規則では、単独の教授会を開催することとなっており、実態と規則を整合させることが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念は確立し、ウェブサイトなど各種媒体により丁寧に説明され、各種学校行事を通して全学的な共通理解が図られている。

将来のキャリアデザインが描けるよう具体的なモデルに伴う履修プランを示し教育目的・目標を分かりやすく示し、カリキュラムの一部変更を行うなど点検努力がみられる。

教育目的を達成する取組みに3つの重点教育（コミュニケーション教育・情報教育・キャリア教育）を定め展開している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神ならびに教育目的・目標に基づく教育課程を体系的に編成し、学生の将来を見据えた進路支援に資している。特に履修プランと連動した専門科目群を配置している。

今日のICT（情報通信技術）を基盤とする経営環境において、必要なコミュニケーション能力を育成・発展させることを目標とする教育カリキュラムが整備されている。

免許・資格への配慮もなされ、選択科目を多く設置したきめ細かいカリキュラムは、学生の多様なニーズに応えるものとなっている。

学生による授業評価は定期的を実施し、教員間の授業相互参観や「ファカルティ・ディベロップメント（FD）フォーラム」を開催するなど授業改善への意欲が認められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

短期大学設置基準に規定される教員組織は整備されており、かつ活発な教育活動の展開が図られている。

情報機器（マルチメディア設備）は全ての教室に用意されている。

図書館機能を有する情報メディアセンターを中心に、学内外への情報発信を積極的に行うと同時に、他の公共施設と情報交換や連携を図っている。

授業、研究活動、学生指導など、意欲的に教育研究上の業務に取り組む姿勢がうかがわれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

専門分野への高い就職率から教育目標達成への努力がうかがえる。

卒業生の就職先からの評価把握に企業懇談会を開催するなど、全専任教員が携わり教育目標・教育効果の検証に努めている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する情報は各種媒体により公表され、望ましい学生像が明示されている。

入学期、秋学期（後期）ごとに学生を個別に指導し、その学習や生活を支援している。

全学生にノート型パソコン保有を義務づけ、学内どこでも接続できる無線 LAN を整備して、パソコンやウェブサイトを活用した学習と教育が充実している。

奨学金制度などによる経済支援、カウンセラー室を設けてメンタルヘルスケアなど、健康支援を含めた学生生活、進路指導に教職員あげて取り組む体制となっている。

評価領域Ⅵ 研究

教材・教育実践研究を奨励している。

研究活動のための条件整備（研究室・研究日・研究費・研究発表の機会）は整っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

担当部局を設けて、公開講座、国際交流事業を意欲的に行い、地域貢献に取り組んでいる。

当該短期大学と海外教育機関などとの双方向交流については、併設する四年制大学との共同事業ではあるが、留学、派遣制度を制度化し、実績をあげている。

公開講座（併設する四年制大学との共同事業）は、年間約 100 講座前後の開設、800 人前後の参加で地域に定着し、学生も参加している。講座開設は資格取得や地域の生涯学習に大きく貢献し、支持を得ている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会、監事および評議員会は寄附行為に基づき、それぞれの機能は適切である。

学校法人と教職員とは月 1 回程度の比率で開催される大学法人連絡会で連携を図っている。

事務組織は同キャンパス内に併設する四年制大学と共同の組織であり、各局各センター規程に定められた所管業務の範囲と権限に基づき運営され、整備されている。

評価領域Ⅸ 財務

過去 5 ヶ年計画で行われた学園改革実行計画の成果を検討し、中・長期資金繰り表を作成し、年度予算などに反映させ、経営の改善と安定につとめるなど、適切な財務管理を行っている。

特色ある高等教育を実現することにより学生数の維持を図るとともに、退学者ゼロプロジェクトやカリキュラム検討プロジェクトなどの成果が現れるよう努力が続けられている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

併設する四年制大学との合同活動ではあるが、自己点検・評価は平成 5 年度に始まり、授業評価は平成 9 年度から、全学教職員参加による活動は平成 13 年度から実施され、相互評価結果をいかすなど改革・改善への努力と意欲は充分である。

今回の第三者評価に当たり、教育活動全般を総点検する機会となり、今後の教育内容の充実・向上に資する活動が期待できる。